

『演習プログラムのレビューと今後』



BCP担当者のスキル強化プログラム

「BCP担当者の思考力を全力経験で鍛える」
BCPシナリオ非提示型訓練
～初動からBCP発動まで～

1. これまでの演習の総括と今後の予定
2. テュフラインランド ジャパンの演習事例

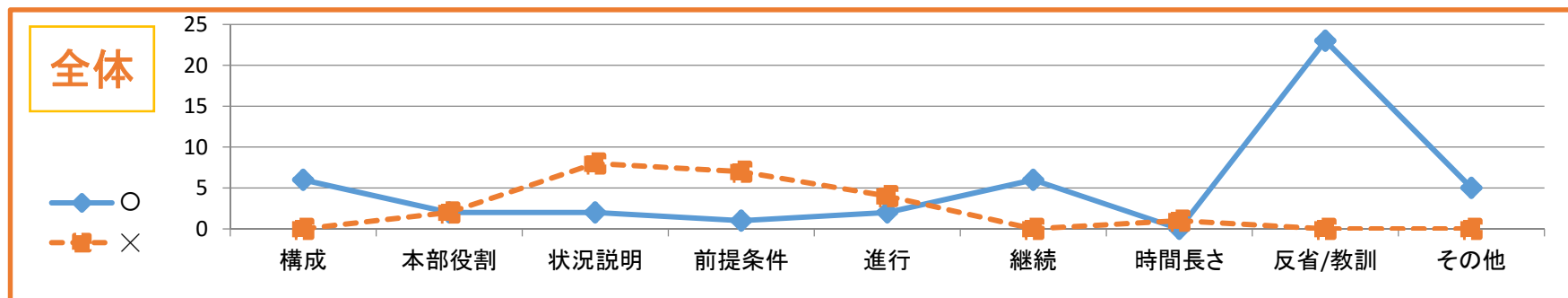
一般社団法人レジリエンス協会
演習研究会(仮称)
2015年3月10日

1. これまでの結果

◆ アンケート結果

	日付	事象	参加人数 (非会員)	アンケート結果 (5点満点)				
				訓練内容	進めかた	資料等	講師	良かった
1	2015/1/20	地震	16 (2)	4.7	4.5	4.0	4.9	—
2	2015/3/24	地震	22 (5)	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9
3	2015/10/14	地震	27 (15)	4.3	4.4	4.1	4.6	4.8
4	2016/2/19	台風	12 (3)	4.6	4.4	4.1	4.6	4.6

◆ コメント分類



2. 成果

- 気づき

- 毎回参加者に、気づきを見つけてもらえた
- 狙い以外の気づきの報告もあった

- 改善項目の指摘

- 資料
- 状況説明
- 前提条件
- 進行

3. 狙い

- 本番の状況を具体的に疑似体験する
- リアリティ(臨場感)を持たせる
- 本番にないものは利用しない
- 緊急事態への切り替え
- 状況変化の先読み
- 構成や状況付与を、印象や記憶に残す
- 情報の取捨選択
- シナリオの作成
 - ✓ 実際の出来事をベース
 - ✓ 意外性(想定外)
- 定着させる(その場限りにしない)

4. 演習から見えてきた懸念事項

散見される行動

平時の合議方式を追従

詳細・追加情報の要請

個別状況に対処

地理不案内

担当者の役割不明確

ロールプレイングの限界

ツール(備蓄品等)活用の未習熟

5. 課題

- 各企業での定着
- 改善・改定実施や効果のフォローアップ
- 事象の多様化
- パラダイムシフト
- 達成目標の設定
- 参加者が災対本部の意思決定者ではない
- シナリオ作成
- コーチングの方法

6. 今後の活動

- 研究会の設立（理事会承認）
- 演習研究会（仮称）
主査：上田悦久、副主査：田中弘明、担当常務理事：荒井富美雄
- 演習（訓練）の研究
研究課題（仮）：手法・方法、効果測定、構築
- 研究成果の発表 → 演習の実施
- 訓練・演習手法やコーチング手法の取入れ
- メンバー募集（共同作業、研修にしない）
→ 個人貢献（経験に基づく）
→ 研究分担

研究会への皆様の参加
よろしくお願ひします。

ありがとうございます。